

## 平成30年度群馬県病院事業の決算について

平成30年度病院事業決算は1億3千1百万円の純損失でしたが、昨年度の決算と比較して、3億3千1百万円の収支改善となりました。第四次病院改革プラン（H30～R2年度）に基づき、計画期間中の黒字化を目指し、更なる経営改善を推進していきます。

## 【平成30年度純損益状況】

(単位：百万円)

	純 損 益					
	心臓血管	が ん	精 神	小 児	総務課	合 計
平成30年度 (A) 病院事業純損益	△128	△195	327	56	△191	△131
病院事業収益 (うち繰入金)	9,109 (702)	10,451 (711)	3,064 (743)	6,396 (1,460)	12 (11)	29,032 (3,628)
病院事業費用	9,238	10,646	2,737	6,341	202	29,163
平成29年度 (B) 病院事業純損益	△370	16	238	△171	△174	△462
病院事業収益 (うち繰入金)	8,619 (745)	9,958 (810)	2,921 (730)	5,961 (1,332)	37 (35)	27,496 (3,652)
病院事業費用	8,988	9,942	2,683	6,132	211	27,958
対前年度比(A) - (B) 病院事業純損益	241	△210	89	227	△16	331
病院事業収益 (うち繰入金)	491 (△43)	493 (△99)	143 (13)	435 (128)	△25 (△24)	1,536 (△25)
病院事業費用	249	703	53	208	△9	1,205

(注) 数値は、表示単位未満を四捨五入しているため、端数において合計とは一致しないものがあります。

## 病院事業全体の決算の状況

収益については、入院収益が入院患者の増により10億6千7百万円、外来収益が患者1人1日当たり診療収入の増加により3億2千万円それぞれ増加し、全体では15億3千6百万円増加しました。

費用については、材料費が5億6千6百万円、給与費が3億1千1百万円、経費が1億3百万円、減価償却費が1億4千8百万円増加し、全体で12億5百万円増加しました。

この結果、前年度と比較して純損失は3億3千1百万円減少し、1億3千1百万円となりました。

## 【参考】純損益の状況

(単位：百万円)

	H21年度	H22年度	H23年度	H24年度	H25年度	H26年度	H27年度	H28年度	H29年度	H30年度
実 績	△1,519	△816	△631	△162	△202	△5,007 △503	△166	△281	△462	△131
プラン	△2,161	△1,520	△913	△581	△202	199	△355	△90	13	△39

※平成26年度実績の下段は会計制度改正に係る影響額を除いた試算額

※ 各病院の決算の状況（主な要因と今後の方針）

○心臓血管センター

（要因）新規入院患者の増加や手術の増加により医業収益が増加したことにより、収支は改善しました。

（方針）心疾患の高度専門病院として、先進的な医療を安全、確実に提供するとともに、県内各地域の医療機関や救急隊との連携強化を図るなど、患者増による収益の増加に取り組み、財務状況の改善を図ります。

○がんセンター

（要因）患者の増加により医業収益が増加したものの、高額薬剤の使用増により薬品費が増加したこと、減価償却費が増加したこと等により費用が増加し、収支は悪化しました。

（方針）がん専門病院として、引き続き、集学的治療や低侵襲治療、緩和ケア等、高度・専門的かつ患者にとって最適な医療を提供しつつ、地域医療機関との連携を強化するとともに、新たな治療方法へも挑戦し、更なる患者確保に努めます。

○精神医療センター

（要因）入院患者が増加し、外来患者も増加したことにより医業収益が増加し、黒字幅は拡大しました。

（方針）精神科三次救急の基幹病院として、精神障害により自傷・他害の恐れのある患者を受け入れるとともに、司法精神医療における基幹病院としての役割を担い、県民の精神的健康の保持及び増進に努めます。

○小児医療センター

（要因）新規入院患者の増加や病床の効率的な運用等の経営改善の取組により医業収益が増加し、収支は改善しました。

（方針）医療サービスの向上と病院機能の強化を図りつつ、更なる収支の改善に取り組みます。

県内唯一の小児専門病院として、高度で先進的な周産期・小児医療を安全に提供し、県内全域の三次医療及び北毛地域の二次救急医療に引き続き対応していきます。